

# ペットの防災対策 ガイドブック



この冊子には、もしもの災害時に住民とペットが安全に避難し安心して生活するための情報が載っています。

あなたはペットと一緒に避難する用意ができていますか？

日頃からできる備えや避難所のことについて知り、「我が家の防災対策」を見直してみましょう！



北島町  
平成29年度

# 1

## 日頃から備えておくこと

災害時にペットが取り残されてしまうと、そのまま行方不明になったり、飼い主が「うつ」になってしまった例もあります。人とペットが安全で健康に過ごすためには、突然の災害時にも落ち着いて一緒に避難できるよう、日頃からの備えが何よりも大切です！

### ● 飼育環境の見直し

災害時にペットを守るためには、まず安全な環境づくりが最も重要です。住まいの耐震強度を確認し、飼育環境を点検しましょう。



#### 室内飼いの場合

- 家具やケージの転倒・落下防止  
つっぱり棒や固定器具で固定する
- 水槽などのガラス  
台に固定し、飛散防止フィルムを貼る

#### 屋外飼いの場合

- ブロック塀や窓ガラスから離れたところで飼う
- 首輪や鎖・リードは頑丈なものを
- ケージや囲いを補強  
(隙間がないようにする)

### ● 家族や地域での話し合い・連携

災害時のさまざまな状況を想定して、日頃から家族で相談しておきましょう。また、万が一のときに助け合えるよう、ご近所の方々や飼い主仲間との交流や飼育マナーには気を配りましょう。

- ペットを連れてどうやって避難する？留守中はどうする？
- 家族の連絡方法・集合できる場所は？
- 非常避難袋には何を入れる？どこに置いておくか？
- 避難場所までの経路は？そこが通れないときは？



### ● 健康管理と不妊・去勢手術

災害時はペットにも大きなストレスがかかります。慣れない避難生活で体調を崩しやすくなるため、普段からペットを清潔に保ち、健康状態に注意しましょう。また、望まない繁殖を防ぐために不妊・去勢手術を受けさせましょう。

★犬の場合：狂犬病予防接種、各種ワクチン、フィラリアなど寄生虫の予防・駆除

★猫の場合：各種ワクチン、寄生虫の予防・駆除

## ● 日頃のしつけ

普段からしつけておくことで、緊急時の避難を速やかに行えます。また、避難所での迷惑を避け、ペットと飼い主のストレスを減らすことができます。



- ・「待て」「おすわり」などができる（犬の場合）
- ・ケージ等に入ることを日頃から慣らす
- ・不必要に吠えない
- ・人や動物を怖がったり、攻撃・威嚇したりしない
- ・決まった場所で排泄できる

## ● 迷子防止

災害時にペットがどこかで保護されたとき、身元がわかるものを付けていれば発見の可能性が高くなります。犬の場合は鑑札と迷子札を、猫の場合は迷子札を必ず装着します。首輪には早いうちから慣れさせておきましょう。また、マイクロチップはペットから離れることがないため、さらに安全です。5,000円～6,000円程度で装着できます。（※動物病院によって変わります）

▼犬の鑑札



## ● 備蓄品などの用意

避難所での備えも飼い主の責任です。すぐに支援物資が届かず、持参品だけで何日も過ごさなければならなくなることも多いので、少なくとも3日分は用意しておきましょう。余裕があれば5日分用意していると安心です。また、親戚や友人など、緊急時にペットを預ける場所を決めておきましょう。

### 【優先順位①】 命にかかわるものは、身近なところに置きましょう

療法食、薬、エサと水、予備の首輪とリード（壊れにくい丈夫なもの）、食器、ガムテープ（ケージの補強など色々なことに使えます）

### 【優先順位②】 飼い主やペットの情報を記録したものを用意しておきましょう

飼い主の連絡先、ペットの写真、ワクチン接種状況、既往症・健康状態、かかりつけ病院など

### 【優先順位③】 その他ペット用品はわかりやすいところにまとめておきましょう

ペットシート、排泄物の処理用具、トイレ用品（猫の場合はトイレ砂）、タオル、ブラシ、おもちゃ、洗濯ネット（猫の移動に使えます）



※季節などによって、必要なものや避難の仕方も変わります。地域や気候に合わせた準備の工夫をしましょう！





# 2

## 災害発生時・避難所での注意点



### ● 発生直後の対処

#### ① まずは、人の身の安全！

ペットを守るためには、まず飼い主が無事でなければいけません。

#### ② ペットの安全

災害時にはペットもパニックになり、飼い主の動揺や不安がペットにも伝わってしまいます。まずは普段通りの態度や言葉をかけて落ち着かせましょう。犬はすぐにリードをつけるか、小型犬はキャリーバッグなどに入れましょう。猫は普段慣れているケージに入れましょう。

#### ③ 落ち着いて避難の用意

室内のガラスや倒れた家具に注意して、非常避難袋を用意します。ブレーカーやガスの元栓を切りましょう。ペットは飼い主と一緒に避難します（同行避難）。リードがゆるんでいないか、キャリーバッグやケージの扉が開いてしまわないか、十分確認しましょう。必要があればガムテープなどで固定しましょう。

### ● 避難所や仮設住宅での注意点

避難所では動物が嫌いな人、アレルギーのある人、ペットとトラブルを起こしやすい幼い子供などたくさんの方が一緒に生活するので、飼育マナーには普段以上の注意が必要です。



避難所では、ペットの管理やエサなどの用意は飼い主の責任となります。ペットを清潔に飼育し、周りの人に配慮しながら、飼い主同士で助け合いましょう。

### 注意

★守るべきルールは、避難所によって変わります

★ペットと人が離れたスペースで生活しなければならない場合もあります

- ・ペットの会をつくり、助け合う（世話や支援物資などの情報を教え合う）  
共同でルールを作り守ることで、ペットが受け入れられやすい環境を作れます
- ・災害ボランティアによる支援を活用する
- ・ペット飼育エリアと飼育禁止エリアのルールを守る
- ・たとえ飼育エリアでも、鳴き声や排泄物の処理は近所の方への気配りをする



北島町まちみらい課

TEL：088-698-9806

